



国際ロータリー2620地区

御殿場
ロータリー
クラブ<http://www.gotemba-rc.gr.jp/>御殿場
ロータリークラブ
モバイルサイト

第2262回 例会プログラム

- 例 会 場／YMCA東山荘
- 開 会 点 鐘／12:30
- ロータリーソング／奉仕の理想
- 内 容／ロータリー理解推進月間
ロータリー情報委員会

会 員 慶 事

- 会員誕生日／1月25日 大胡田明寿君
1月26日 山崎伊久雄君
1月26日 勝又安彦君
- 夫人誕生日／1月28日 内海隆治君 ご夫人 幸子様
1月29日 小早川豊一君 ご夫人 かず代様

会 長 挨拶

高村 繁男



皆様こんにちは、先週の新年初顔合せでは大勢の方にご参加を頂きまして誠にありがとうございました。又、親睦委員会の皆様には大変お世話になりました。それでは富士山シリーズ第27話 富士山の湧水についてお話をさせていただきます。

②富士山の湧水

富士山の底面積は約930km²、そこに降る雨や雪は年間20億トンといわれています。

富士山麓の湧水は4つに区分すると、1位の湧水量を誇るのが東麓の三島地区、2位が西麓の富士宮地区、3位が南麓の富士地区、4位が北麓の山梨県で、1位の三島地区を代表する柿田川では1日の湧水量が120万トンにもものぼり、この内18万トンは上水道に、11万トンは工業用水に使われています。

次に2位の富士宮地区の1日の湧水量は、猪之頭で10万トン、淀師で30万トン、浅間大社の湧玉池で30万トンで、その最大の特色はニジマスの養殖に利用されていることです。そして、もう1つ珍しい特産品に芝川のりがあり、このりは清流だけに育つという大変珍しいのりです。

3位の富士地区では製紙業が盛んで、製紙1トンを作るのには水500トンを使うともいわれています。この地区では地下水が1日127万トンであるのに対して、何と113万トン採取しているそうです。

では、小山町や御殿場市はどうかといいますと、地下水の流動量は114万トンで、その内28万4千トンが井戸から揚水されており、柿田川と似た数字になっています。

このように富士山は巨大なスポンジ状の水がめとなっている訳ですが、高度経済成長期にはこの水に目をつけた大手企業の富士山麓への進出が進み、水の大量消費が行われたため、この大自然の原理を壊し、湧水量の減少や、その影響によるニジマスの大量死や芝川のりを絶滅寸前にまで追い込みました。近年は、企業側も水の再利用など積極的な節水に取り組んでいます。

会長挨拶用
QRコード

1/17の出席報告

会員数	出席計算に 用いた会員数	出席者数	暫定出席率	前々回の 確定出席率
58名	56名	52名	92.86%	100%

※やむを得ず欠席される方は、午前10時までにご連絡下さい。

欠席者（4名）

井上 元君
石川又英君
神谷高義君
芹澤正明君

1/17のスマイル

- ・新年会参加ありがとうございました。楽しい一時を過ごさせていただきました。会長、幹事
- ・わが娘が全国硬筆(鉛筆書き)コンクールで優秀特選の賞を頂きました。字もうまいです。
豊山 篤君
- ・新年会へは多くの皆様のご参加ありがとうございました。親睦活動委員会

12/27のメーキャップ

12月26日 長 泉RC 井上 元君 12月27日 清水中央RC 芹澤正明君

奉仕を通じて平和を
Peace through Service次 回
1月31日の
例 会

★12:30点鐘 ★YMCA東山荘
★「F1世界選手権について」
〈F1を取り巻く内外〉
ノバ・エンジニアリング株式会社
森脇 基恭様



建設業界の現状と課題

林 則夫君

1. 建設業界の現状

日本の建設投資は平成4年がピークで約84兆円。20年経過した今は約半分の42～43兆円です。これに対し建設業者数は平成11年がピークで約60万社、平成24年は約48万社です。仕事量は50%減少したのに業者数は20%減で、業者過剰の状態が続く、熾烈な競争にさらされています。

発注単価も下落を続けており、例えば、公共工事の積算労務単価はピーク時に比べて約35%低下し、利益率低下に直結しています。売上減少と利益率低下の二重苦にあえいでいるのが、建設業界の現状だと思います。かなりの間この状況にさらされて企業としての余力を失いつつあり、余力を失えば若い社員を雇用し育てることも、災害時等の緊急時にも適切な対応ができません。このことは地域社会そのものの力の低下にも繋がると思います。建設業に限らず、企業は適正な利益がなければ、地域社会の一員としてその責務を全うすることができないのだと思います。そのような意味からも今の建設業界はかなり危機的な状況に陥っていると感じています。

2. 社会インフラの再点検

2011年3月の大震災から1年10ヶ月が経過し、各地で津波対策をはじめ震災対策の見直しが行われていますが、まだまだ不十分で、再びマグニチュード9クラスの地震が発生すれば大災害となることは間違いありません。昨今はゲリラ豪雨も頻発し、その被害も甚大です。2010年9月の小山町豪雨災害はまだ記憶に新しいところです。このような状況を考えると、現在のインフラが自然の猛威の前では極めて脆弱であると言わざるを得ません。つまり従来の設計基準では不十分だと思われることが散見されます。私たちが安心して暮らせる社会にするには、生活基盤そのものである社会インフラを強靱化していく必要があります。実はちょうど今、様々な社会インフラが更新時期を迎え、強靱化を進めるには絶好のチャンスでもあるのです。

戦後の高度経済成長と共に、日本におけるインフラ整備も本格的に始まり、東京オリンピックや万博などのビッグイベントや列島改造論の波に乗って、高速道路や新幹線の整備が加速度的に進みました。これら日本の大動脈と共に、各地方都市における社会インフラ（河川、道路、橋、上下水道、公共建築物等）も急速に整備されていきました。そして今、それらの社会インフラも順次寿命を迎えつつあります。つまり更新時期が到来したのです。

昨年12月に発生した中央自動車道笹子トンネルの天井崩落事故はまさに老朽化がもたらした悲劇で多数の犠牲者を出しました。しかしこれは氷山の一角で老朽化に起因する事故は年々増加傾向にあります。例えば、首都圏の高速道路は全体の半分以上が築30年を超え、コンクリートが剥落して赤錆びた鉄筋がむき出しになっているなど、補修が必要な箇所は9万7千箇所以上あると言われていています。これは首都圏の大動脈が大きな危険性を抱えたまま供用されているということであり、大変由々しき問題です。

また、2012年4月には浜松市（旧佐久間町）にある原田橋が老朽化でケーブルの一部が破断して通行止めになりました。この橋が通れないと救急時に人間を病院へ搬送するのに2時間かかると

いいます。まさに人命にかかわる事態となっていたのです。このような橋梁の老朽化は全国的にも深刻な状況で、通行止めや通行制限をしている橋梁は1900箇所を超えています。

水道管の破裂事故も相次いでいます。全国の水道管布設総延長は約61万km（地球を15周以上）、その6%が耐用年数の40年を経過した老朽管で、さらに20年後には老朽管の割合が40%を超えるといえます。老朽化は鉄道、空港、港湾、トンネル、河川（護岸）、下水道などあらゆる社会インフラに該当します。そして本格的に老朽化が進行するのはむしろこれからであり、今後加速度的にその影響が顕在化してくることは容易に想像できます。

3. 今後の課題

社会インフラの強靱化を含めた更新や維持管理は待ったなしで行う必要がありますが、現在の社会インフラを適切に更新・維持管理していくにはどのくらい費用がかかるのでしょうか。

ある民間の研究機関の試算によりますと、現在ある社会インフラを維持管理・更新していくだけでも近い将来年間26兆円もの費用が必要になるといいます。現在の公共投資額が年間15兆円前後ですからそれを全額回しても11兆円足りません。

今日本は巨額の債務を抱え、経済的にも疲弊しています。そして更に進行する人口減少、超高齢化の中で、毎年26兆円もの費用を社会インフラの維持管理・更新に拠出することは不可能に近いと思います。しかし老朽化は待ってくれません。なんらかの対策を講じなければ、社会インフラの崩壊が日本社会そのものの崩壊を引き起こす危険性さえ否定できないのです。インフラの老朽化との戦いは始まったばかりですが、どのようにして維持管理費用の軽減を図っていくかが鍵になります。その試みの一つとして、インフラの維持管理手法を「壊れてから直す」事後保全型から「壊れる前に計画的に直す」予防保全型へと移行している地域があります。このような対策によって維持管理費用が大幅に軽減できるといわれております。

また、ゲリラ豪雨による河川の氾濫などは、堤防決壊する場所によって被害の深刻さが大きく異なります。人口密集地域に土石流が流れ込めば人命に関わる大災害になりますが、田や畑であれば被害の度合いはかなり軽減されます。従って、河川氾濫の危険性が高まったときには、危険度の少ない箇所を意図的に決壊させて被害を軽減させることも考えておく必要があります。

昨年、自民党が政権を奪還して、10年間で200兆円の公共投資をやると言っております。ここで一気にインフラの老朽化対策を進めて、将来にわたって発生する維持管理費の低減を図っていくことが大切だと思います。

阪神淡路大震災から今日でちょうど18年になりました。昨年、機会があって神戸へと行ってきましたが、街は完全に復興しているように見えました。しかし、地元の人に話を聞くと、社会インフラ等は元通りに戻ったけれど、企業は3割減少したそうです。震災でインフラが崩壊し、やむを得ず他地域に移転した企業が、その新天地にすでに企業基盤や生活基盤を築き上げており、今度は簡単に戻ってこれないということも多いそうです。このようにインフラの崩壊は地域社会そのものの崩壊をもたらしますが、その後インフラを元通りに戻しても地域社会は元通りにはならないのです。

これからもインフラの老朽化と正面から向き合い、どのようにすれば適切な維持管理や強靱化を進めていくことが可能なのか、また、どのようにすれば災害が発生しても被害を最小化できるのかを、みんなで知恵を出し合って考えていかなければならないと思います。



司会 渋谷 一君



ソングリーダー 豊山 篤君



出席報告 渡辺修司君



地区青少年交換小委員会委員
委嘱状交付 勝又 厚君



第2620地区

御殿場ロータリークラブ

○例会日/木曜日
○例会場・事務局/YMCA 東山荘
静岡県御殿場市東山1052
電話/0550-83-1133 FAX/0550-83-1138
<http://www.gotemba-rc.gr.jp/>

会長 高村 繁男
幹事 白井 良太
会報委員長 秋田 敬